



沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

- | | | | |
|---------------------------|-----|-------------------------------|-------|
| 1. 校長より | 2 | 8. 高専祭を終えて | 12 |
| 2. 卒業生(本科5年生)へ贈る言葉 | 3・4 | 9. ロボコンの結果報告 | 13 |
| 3. 卒業(本科5年生)にあたって | 5・6 | 10. 課外活動・コンテスト実績 | 14 |
| 4. インターンシップに参加して | 7・8 | 11. 専攻科及び九州大学の連携教育プログラムの紹介 .. | 15 |
| 5. 修了生(専攻科2年生)へ贈る言葉 | 9 | 12. 就職・進学活動を終えて(本科5年生) | 16 |
| 6. 修了(専攻科2年生)にあたって | 10 | 13. 就職・進学活動を終えて(専攻科2年生) | 17 |
| 7. 学生会長挨拶(1年を振り返って) | 11 | 14. 就職・進学・志願状況 | 18・19 |



沖縄工業高等専門学校

校長 さとう たかや
佐藤 貴哉

この度の卒業式、専攻科修了式、誠にありがとうございます。新しい世界に飛び立つ諸君が人々から信頼される技術者となり、社会に貢献し、幸せな人生を築かれることを祈っています。保護者の皆様をはじめ、沖縄高専産学連携協力会、後援会の皆様方には、平素より本校の教育、研究にご理解とご協力を頂き、深く感謝いたします。

沖縄高専出身の技術者はこれから社会の課題を解決し、人々の生活を豊かにするモノ創りコト創りの重要な役割を担っていくことになります。その時に自身への一つの問いかけ、『これは安全だろうか?』を忘れないでください。技術者は常に人命の安全を最優先に考慮しなければなりません。設計段階のみならず、製作現場での安全対策、事故発生時の対応策など、あらゆる場面で安全意識を持つことが求められます。「品質・安全マネジメント特論」で学んだと思いますが、潜在的な危険を早期に発見し、適切な対策を講じるための実際的な手法に『危険予知』があります。危険を予知するためには、周囲の状況を注意深く観察し、潜在的な危険を察知する能力が必要です。技術者として自らのミッションを実行する前に危険源を洗い出し、そのリスク対応を講じてから行動に移す余裕を持ってください。イノベーションとは、既存の枠組みにとらわれず、新しい発想や技術で社会に変化をもたらすことです。新しいことを行うには、常に未知の危険が伴います。そのため、イノベーターにとって高度な危険予知能力は、イノベーションを成功させる上で不可欠な能力と言えるのです。

さて、沖縄高専は次の十年を見据えて、新しい教育研究コース「観光・地域共生デザインコース」を設置しました。この新コースではICTとデータサイエンスを駆使して、沖縄の産業界にイノベーションを起こす技術者を育成します。技術のみならず、沖縄の文化や企業経営なども重要視し、アントレプレナーシップを醸成するための教育手法も加えて、「エンジニアの新たな可能性」を学生と共に追及していきます。もちろんネットワークセキュリティーやデータ取り扱い上の危険予知も学びます。

また沖縄高専はアジアの玄関という地理的優位性を活かして、全国国立高専の国際展開・国際交流のトップランナーとしての活動を開始しています。沖縄から世界へ飛び出す学生とアジアから日本を目指す学生の教育研究のサポートに今まで以上に力を入れて行きます。円滑なコミュニケーションには、相手の表情や言葉、態度から、相手の気持ちや状況を察知し、適切な対応をとることが必要で、ここでも危険予知能力を磨いておくことが重要です。

結びに、沖縄高専では、様々に変化する社会の中で強く生き抜ける人材育成を今後も教職員一丸となって推進する所存であります。新しい年度におきましても、関係各位に本校の教育・研究にご理解を頂き、更なるご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生(本科5年生)へ贈る言葉



機械システム工学科
たけむら ふみお
武村 史朗

「あなたはタイムマシーンで過去をやり直すことができます。
いつに行きたいですか？」

皆さんは、このような質問にどう答えますか？僕は、二十歳の頃だったら、小学生の頃がいいなあ、と答えていたかも。半世紀ほど過ごした今は、昔に戻ることは勘弁です。そう思える僕は、家族が突然の事故や災害に合わず、今のところ幸せな人生でしょう。

しかーし、そこまで昔じゃないとしたら、3年前（2022年3月）に戻って、「機械17期担任にはなるな！」と全力で自分を阻止したい。ですが、タイムマシンはないので、僕のこの願いは叶いません。

皆さん本校での学生生活はどうでしたか？ 新型コロナウイルスで世界が激変した過去は変わりませんし、これからも、その後の世界です。これまでは、新型コロナウイルスで学びが直撃された学生ということで、社会は甘やかしてくれた部分があるかと思います。学生は終わりです。卒業後は社会人としての始まりです。皆さんの特性を活かした活躍ができるといいなあ、と気になります。

現在、タイムマシンはありません。やり直しはできません。30年後のご自身に恥じない歩みを皆さんには望みます。もし、30年後タイムマシンができたとき、2022年3月に戻り「機械17期担任になるといいことあるから、やっつけ！」と自分に言えたら、嬉しいなあ。その未来を祈念して(-人-)。



情報通信システム工学科
みやぎ けい
宮城 桂

皆さんの高専生活は、決して平坦な道のりではありませんでした。入学式を迎えることなくスタートした5年間。世界が大きく変わる中で、皆さんは先の見えない不安と向き合いながら、一歩ずつ歩みを進めてきました。研修旅行では、本来なら海外へ行くはずが国内となり、期待していた経験とは異なるものになったかもしれません。それでも、その場でしか得られない学びを見つけ、かけがえのない思い出をつくった皆さんの柔軟さと前向きな姿勢に、心から敬意を表します。

そんな中で、皆さんがコンテストや課外活動で活躍し、その名を全国や地域に刻みました。自ら挑戦し、努力を重ね、成果を上げてきたことは、皆さんの誇りであり、私たちの誇りでもあります。

卒業後の道は、それぞれ異なります。社会に出る人もいれば、大学でさらに学びを深める人もいます。しかし、どんな道を進んでも、皆さんがこの高専で培った「困難に負けない強さ」と「挑戦する勇氣」は、きっとこれからの人生を支える大きな力になります。

これから先も、迷ったり、立ち止まったりすることがあるかもしれません。でも、皆さんはもう知っています。どんな状況でも前を向き、工夫し、仲間と支え合いながら進んでいけることを。

皆さんの未来が希望に満ちたものでありますように。そして、いつでも母校を訪ねてください。皆さんの活躍を、心から楽しみにしています。

改めて、ご卒業おめでとうございます！

卒業生(本科5年生)へ贈る言葉



メディア情報工学科
さとう たかし
佐藤 尚

メディア情報工学科5年生の皆さん、卒業、おめでとうございます。皆さんは、2019年冬に起きた新型コロナウイルス感染症パンデミックによって大変な影響を受けた学生です。様々な制限があった中で各々が努力し、そして互いに助け合いながら邁進し続けました。また、皆さんは、2020年度から私が沖縄高専で始めた、恐らく、沖縄県内では初となる「ボードゲーム」を教材として「創造性」をテーマとする講義の受講1・2期生でした。上記講義をきっかけにボードゲームを嗜むようになってくれた人が1人でもいたなら、私はこの講義を創った甲斐があります。皆さんが5年生になるまでには色々あったでしょうけれど、学生同士とても仲の良いクラスだったと私は思います。掲載した写真は、2024年度高専祭の記念写真です。良い思い出になったであろうことが皆さんの沢山の笑顔から分かり、私も嬉しく思いました。



締め括りとして、新たに旅立つ皆さんに私から「最後の最後まで諦めない」という言葉を贈ります。この言葉の中で「最後」という語が3回続くところがポイントです。誰も諦めなくなることはあるでしょう。しかし、2回乗り越え、そして3回目になが折れそうになっても、決して諦めずに限界突破し続ければ必ず事を成せる、そんな強い心を持って欲しいという願いを込めています。ただ、勘違いしないで欲しいことは、心身が壊れても諦めるな、と言いたい訳ではないということです。心身は全ての大本なので、それらが壊れては意味がありません。苦し過ぎて限界を超えられないと思った時には誰かに必ず相談してください。もし、私でも良いならば、いつだって相談に乗りますよ!!

皆さん1人1人の未来が輝きますように。



生物資源工学科
たなべ としあき
田邊 俊朗

17期の皆さん、卒業おめでとうございます。17期生は新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって入学式も執り行われず、入学後直ちにオンライン授業へ移行しましたね。座学のための授業では、PowerPointのスライドが切り替わりながら教員の声でするだけでは、果たして効果的に学修指導できるかどうか不安でした。その為、ホワイトボードにプロジェクターでスライドを投影し、その前に立って一人講義する動画を撮影、編集してStreamにアップロードする毎日でしたが、自分はいつからYouTuberになったのだったかと自問自答していました。特に困ったのが実験です。皆さんも、慣れぬPCで動画を見るだけ、実験器具も測定機器にも触れないで、実験授業って何だろう?と思っていたのではないのでしょうか。私たち教員もこれで実験授業なのか、と悩みながら進めていたものです。家庭でできる実験はないか、家庭にあるもので試薬や器具や装置の代わりにならないか、いつも考えていました。ふと思いついて、試薬や器具・装置の代替を1年生であった皆さんに考えてもらおうと、私たち教員の予想を超える妙案が頻出し、皆さんのアイデアに驚いたものです。皆さんの自由な発想力は、パンデミックをものともせず、インターンシップや卒業研究でさらに高まったのではないのでしょうか。AIの台頭によって、変容する速度がますます増したこの社会では、皆さんの培った基礎的な技術力に加えて、それを応用する豊かな発想とアイデアが役立つと信じています。進学・就職ともに新たな立場に立った皆さんの、今後のご活躍を願ってやみません。

卒業(本科5年生)にあたって



機械システム工学科
たいら ゆうた
平良 祐太

沖縄高専に入学して時が経ち、気付けば卒業目前となり、あっという間の5年間でした。私が高専に入学した当初、新型コロナウイルスが流行し、先の見えない毎日に不安を抱えていました。しかし、時間が経つにつれて感染状況が落ち着き、普段通りの生活に戻って良かったです。

高専に入学して約2年間は新型コロナウイルスに振り回されて遠隔授業、対面授業を繰り返し、課題の提出、試験勉強に加えて実家と寮の行き来が大変だったことを今でも覚えています。入学してから3年目から徐々に状況が落ち着きましたが、授業の難易度が上がり単位取得がより一層難しくなりました。それでも、仲間と助け合うことで課題や試験を乗り越えることができました。また、日常生活や学校行事を通して多くの思い出を作り、仲間との絆を深めることができました。この5年間を乗り越えられたのは仲間だけでなく、ここまで支えてくれた家族、先生方、先輩方、寮事務の皆様のおかげです。心より感謝を申し上げます。

卒業後は社会を支える一員になります。新たな環境で同期と切磋琢磨しながら、これまでに得た経験を活かし、社会に貢献できる人材になれるように精進します。



機械システム工学科
とう め こうだい
当銘 晃大

いざ卒業となっても、5年間続いた本科の高専生活が終わりを迎える実感は湧きません。

思い返してみれば、5年間の学校生活はコロナウイルスの影響を受けながらも充実していました。

新型コロナウイルスで中止となった入学式から、2年もの間遠隔授業と対面授業を行ったり来たりで慣れない環境の中、授業についていくのが大変だったことを今でも覚えています。

この時期は、体育館が使用できず、部活動も活動休止していたため友人たちと自主的にダンスの活動を始めました。練習場所は近くの公園や海などと今思えば、よく続けられたものだと思います。3年生からは後夜祭の舞台に立つ機会をいただき、衣装や演出まですべて仲間たちと考える踊りました。

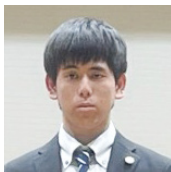
後夜祭の舞台からの景色と仲間と切磋琢磨した日々は一生の思い出です。

3年生からは留学生のサポートをしたり、4年生のインターンシップでは自分の興味のある会社に直接応募してみたりと色々と挑戦をする機会がありました。

5年生では、卒業研究を通してこれまで学んだ数学や専門科目が生きていることを実感した一方で、理解が甘かった点が浮き彫りになりました。

本科卒業後は大学院への進学を考えて、専攻科でさらに勉学に励みたいと思います。

最後に、5年間支えてくださいました先生方、学校生活を共に過ごした友人たち、家族に感謝を申し上げます。



情報通信システム工学科
くば りゅうと
久場 琉澄

情報通信システム工学科5年生の久場琉澄です。この度、株式会社 FIXER への就職が決まりました。私が就職を果たせた大きな理由としては、課外活動でたくさん経験を積んだことにあると考えています。沖縄高専2年生の時から、同じ志を持つ仲間とともに研究に励んできました。最初は社会実装フォーラムに挑戦しましたが、発表や質疑応答がうまくいかず、良い成績を収めることはできませんでした。しかし、その経験があったからこそ、悔しさをばねに、私達はより努力するようになりました。その努力によって、テクノアイデアコンテストにてグランプリを受賞、また、東熱科学技術奨励財団にて本賞を受賞しました。それら活動を通して研究の幅を広げ、後にチーム一丸となって出場した DCON2024 にて農林水産大臣賞と企業賞2つ、合わせて3つの賞を得ることができました。そしてつい先日行われた第1回みどり戦略学生チャレンジでは、農林水産大臣賞を受賞させていただきました。これらの活動は企業の方にも高く評価していただき、無事株式会社 FIXER に就職することが叶いました。

課外活動を通じて、コミュニケーション能力や発表能力、時間管理能力など、さまざまなスキルを身につけることができました。これからの学生たちにも、ぜひ課外活動に積極的に取り組んで、多くの経験を積んでほしいと思います。



情報通信システム工学科
みやざと しょうご
宮里 彰吾

5年間の高専生活、長いと思っていたら早くも終わりが近付き、各々が新たな道へと進む準備が着々と進んでいます。春からの新居を探したり、就職先で使うであろう知識の学び直しをしたり、学生最後の時間を精一杯謳歌したり……などなど、私の周りでも人それぞれ様々な動きが見受けられます。

早くから進学を目指していた私ですが、実際に進路が確定したのは12月。幅広い分野に興味を惹かれ、ギリギリまで悩んで気付いたら年末まで粘っていました。今思い返せば、それも進路が多様な高専ならではの悩みだったかもしれません。

最初の受験は6月。せっかくなら遠く離れた地でより高みを、と格上挑戦でしたが結果は不合格。上手くいかない現実に対する不安と、応援してくれた周りへの申し訳なさに一時期苛まれていました。そこから一度冷静に、自分が進みたい道を整理し、先生方からの情報提供を受け、周りからの励ましを受け、ようやく後期に進路が決定。あの時支えてくれた周囲の存在には今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

進路活動、失敗しても死ぬわけではありませんし、なんとかなります。4年生以下の皆さんも是非、泥臭くてもじっくり後悔のない選択をしていただければと思います。

卒業(本科5年生)にあたって



メディア情報工学科
いげい あつき
伊芸 侑輝

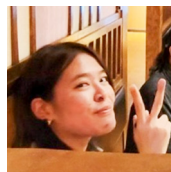
私たちの学年は、それ以前とは異なる特別な経験をしてきました。新型コロナウイルスの影響により、入学式が行われず、学生生活の始まりを実感することなくスタートしました。さらに、1年生・2年生の時は遠隔授業が続き、学校に通うことができない日々が続きました。

3年生になり、ようやく1年を通して、対面での授業を行えたため、メディアの皆との仲も一気に深まっていきました。そして、5年生では卒業研究が始まり、特に後期は忙しく過ごすことになりました。研究の進め方に悩み、何度も壁にぶつかりましたが、指導教員との相談や同級生との議論を通して乗り越えることができました。大変な日々でしたが、それ以上に充実感と達成感を味わうことができました。

進路活動においても、多くの支えがありました。私は就職の道を選び、企業研究や面接対策など、慣れないことに苦戦しました。しかし、先生方のサポートや同級生との情報共有のおかげで、無事に内定をいただくことができました。

振り返ると、私たちの学生生活は決して平坦な道ではありませんでしたが、共に支え合い、成長することができました。ありがとうございました。

この5年間で学んだことや様々な経験で培ったことを胸に、これからの人生も前向きに歩んでいきたいと思います。



メディア情報工学科
たから みさと
高良 美咲翔

高専での5年間の生活はあっという間でした。入学当初の私たち17期はこれから始まる長い学生生活に期待と不安を抱いて高専生の仲間入りを果たすはずでした。しかし、コロナの影響で入学式は中止、そのまま遠隔授業がスタートしました。顔は知らないが声と名前は知っているという奇妙な関係の同期とはTwitterやTeamsチャットで良く交流するようになりました。私を含む同期にTwitterユーザーが多いのはこのせいでしょう。コロナによる規制が緩和され、部活動が再開したことで、私はロボコンに興味を持ち、ロボット製作委員会に入部しました。2年間という短い活動期間でしたが、新しい技術を自分で学びながら1つの目標に対して1年間活動していくという経験は大変貴重なものでした。機械生や情報生がいる中でメディア生の私が回路基板を作り、ロボット制御も行えたのは、優しく教えてくれた同期や先輩方のおかげです。感謝してもしきれません。ロボット製作委員会で得た経験を卒業研究に活かした時は成長を感じました。

こんな色んな経験をさせてくれた高専を卒業後、私は目指していた業界で社会人としてまた新しい環境に足を踏み入れます。慣れない場所での新生活や本当に自分が社会人としてやっていけるのかなど不安ばかりですが、高専で得た知識と経験、5年間やってこられたんだという自信を持って日々を過ごしていこうと思います。

最後になりますが、5年間の高専生活を支えてくださった先生方、楽しい思い出と一緒に作ってくれた友人達、同期、先輩方、ずっと見守ってくれた家族に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。そしてこれからの日々をお互いに楽しく頑張って生きていきましょう。



生物資源工学科
きくやま もも
喜久山 桃

長いと思っていた高専生活もあっという間に5年が過ぎ、気付けば卒業を迎えます。

私たち17期の高専生活は、新型コロナウイルスの影響で入学式が中止、授業も遠隔になり、クラスメートの顔すら知らない状態でスタートしました。新生活は想像していたものとは全く違うものになりましたが、そのおかげで得られたこともたくさんあると思っています。本格的に対面で授業が始まってからは、初めて親元から離れ慣れない環境で過ごす寮生活の中、膨大な量のレポートとテストを友達と夜中まで必死に机にかじりついてなんとか乗り越え、ほとんど学校に行けなかった2年を埋めるように高専祭や課外活動、同級生との交流を目いっぱい楽しみ、目まぐるしい毎日を過ごしました。

改めて振り返ると、高専での5年間を通して、自主性の尊重される豊かな環境で学べたこと、学生だけで何かを作り上げる経験が出来たこと、漠然とした「夢」だった将来を「目標」に変えることが出来たこと、個性豊かな友人たちや先生方に出会えたこと、本当にたくさんのものを得ることが出来ました。高専に行く決断をして本当に良かったと心から思っています。この5年間を糧に、これからももっともって成長していけるよう、精一杯頑張ります。

最後になりますが、5年間お世話になった先生方、17期の皆さん、大好きな友人たち、そして家族に心から感謝致します。本当にありがとうございました。



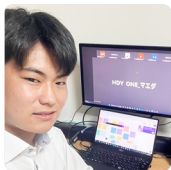
生物資源工学科
よしかわ ゆうのすけ
吉川 優之介

入学してからの5年間、本当にあっという間でした。コロナ禍の影響で入学式が行えず、友達や先生の顔を見ることもできないまま、不安の中で始まった学校生活でした。楽しみにしていた実験も実施できず、遠隔授業についていけるか心配な日々が続きました。それでも、少しずつ学校生活が始まると、友達と過ごす時間が増え、次第にワクワクした気持ちに変わっていきました。授業や課題に追われる毎日は大変でしたが、レポートの提出期限1分前まで粘ったり、テスト前日に友達と夜遅くまで勉強したり、励まし合いながら過ごした日々は、今となってはすべて大切な思い出です。

この5年間で、知識だけでなく、創造力・理解力・忍耐力を身につけることができました。卒業後は三年次編入で大学に進学します。大学に進学後も高専で培ったことを思い出し、さらなる成長を目指したいと思います。

最後になりますが、支えてくれた先生方、共に歩んでくれた友達、そして家族に心から感謝します。そして17期みなさん、ここが終わりではなく、これからも互いに助け合いながら頑張っていきましょう！

インターンシップに参加して



機械システム工学科
たいらくにひさ
平良 国尚

私は、株式会社 Hakuhodo DY ONE (HDY One) の5日間インターンシップに参加させて頂きました。HDY One は、デジタルマーケティング全般にまつわる企画・コンサルティング・代行事業を行う企業です。

今回のインターンシップは、現代のリモートワークの流れを汲んだオンラインでのインターンシップで、参加当日に働き方の固定概念を覆されて、時代の変化即座に対応する HDY One の柔軟さに驚きました。初日には、会社説明と広告とマーケティングに関する基礎知識のインプットを行い、2日目と3日目に初日で学んだ基礎知識を生かしながら個人ワークを行い、4日目と5日目にはグループを結成し、各自の課題に取り組みました。

この5日間のインターンシップを通じて、私は仲間との協力の重要性を学びました。グループワーク中にアイデアに行き詰った時に仲間からアドバイスを貰い、無事課題を達成することが出来ました。この時の経験から、一人の人間にできることは限られているが、仲間と協力することで自分一人では出せなかった結果や実力を発揮できると深く感じる事が出来、とても良い経験となりました！

これからインターンシップに参加する後輩も、人が協力して発揮する力の強さを、これを機に知ってもらえたら幸いです！誰かと協力する事を大切に、これからの学生生活、そしてキャリアを育んでいけることを願っています！



機械システム工学科
ひがたいしょう
比嘉 太翔

私は、出光興産株式会社と矢崎総業株式会社の2社のインターンシップに参加させて頂きました。出光興産はもともと興味があったため、逆に矢崎総業は興味がなかったため参加しました。

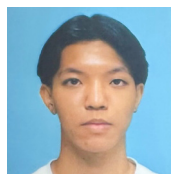
私のインターンシップには2つの明確な目的がありました。1つ目の目的は、仕事を観察したり会社の人と交流したりすることで、自分が実際に働いた時をイメージし、この会社で働きたいと思えるかどうかを調べるということです。強くイメージするために、身近に体験することが出来るインターンシップはとても重要な機会だと私は考えます。2つ目の目的は、自分が全く興味のない業界を体験してみることで、新たな発見を得て、自分の就活に関する価値観を広げるということです。これは、自分の就活軸を強固に興味のないものに触れてみるという1つの挑戦でもあるため、自分の将来の可能性を広げるのに大いに役立つと私は考えます。以上の目的を持ってインターンシップに参加した結果、2社とも目的に対して満足のいく結果を得られたと考えています。

最後に皆さんにも考えて頂きたい就活軸を2つお話しします。1つ目は人を選ぶということです。会社は多くの人で構成されています。私達が人として生きていく以上、1人では決して生きて行けせんし、どんな人達と関わって生きていくのかで、幸福度は大きく変わります。2つ目は貴方の中にある情熱です。仕事は貴方が集中できるものであるべきです。貴方がやりがいを感じられ、毎日の時間を捧げられるものであるべきです。貴方の中にある情熱は仕事で活かせるでしょうか、もし情熱がないというのであれば、就活を機会に探してみるべきです。会社選びは貴方の今後の人生数十年を左右します。大袈裟に聞こえるかもしれませんが純然たる事実です。就活軸としてだけではなく、人生の軸としても貴方が今も、これからも成長し幸せになるために2つの軸は大いに役立つでしょう。



情報通信システム工学科
いしまる こなん
石丸 心行

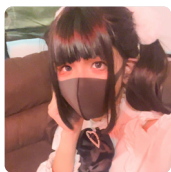
情報通信システム工学科 4年の石丸心行です。私は入学当初から航空業界に興味があり、航空機の整備を行う e.Team ANA、JAL エンジニアリング、MRO JAPAN でそれぞれ5日間、航空機製造を行う SUBARU で1日、計4社のインターンシップに参加させて頂きました。e.Team ANA、JAL エンジニアリングの2社では、主に羽田空港や空港周辺の訓練施設で座学・実習・見学を行いました。座学では、航空機の安全性を確保するための基本的な考え方や、過去の事例を踏まえた企業の安全対策について学びました。実習では、ドリルを使用して鉄板に穴を開ける作業や、ハンマーを用いた打刻作業などを体験し、実務に触れる貴重な機会を得ました。見学では、格納庫での重整備、ターミナルでの運航整備、エンジンや装備品の専門工場での整備作業を、実際に働く整備士の方々と同じ視点で見学できました。MRO JAPAN では、那覇空港内の格納庫で座学・実習・見学を行いました。自社の機体を持たず、他社からの委託で整備を行うという、これまでの日本の航空業界にはない地元の航空産業の現場を直接見学できたことで、沖縄の航空産業がアジアの航空産業に与える影響や役割について改めて考える貴重な機会となりました。一方、SUBARU では、宇都宮にある工場で大規模航空機部品の生産ラインや、陸上自衛隊宇都宮駐屯地に隣接するヘリコプター生産ライン、整備工場を見学させて頂きました。また、SUBARU 専属のパイロットの方とお話しする機会もあり、航空業界の製造・開発分野について深く学ぶことができました。今回のインターンシップを通じて、学校での講義や企業説明会では得られない、実際に働く立場として航空業界の一端を体験することができました。整備会社は名前が異なるだけで、業務内容は基本的に同じだと考えていましたが、実際には企業ごとに設備や現場の雰囲気の違いがあり、それを実感することができました。また、異なる点はあるものの、参加したすべての企業が「チームワーク」と「誠実」を大切にしていることがわかり、航空業界の安全がこの2つの価値観を基盤として成り立っていることを強く感じました。



情報通信システム工学科
さくがわ のりちか
佐久川 紀規

私は今回のインターンシップに参加し、多くの貴重な経験を得ることができました。初めは緊張していましたが、実際に業務に関わる中で、社会人としてのマナーやスキルを身につけることができました。特に印象に残ったのは、コミュニケーションの重要性です。インターンでは、1つの課題に対してチームでアイデアを出し、解決していく業務を行いました。その中で、円滑なコミュニケーションが仕事を進めるうえで不可欠であり、高いコミュニケーション能力が求められることを実感しました。また、先輩社員の方々の働き方や会社の雰囲気を間近で見ることで、自分の将来のキャリアを考える良い機会にもなりました。さらに、業務を通じて自分の強みと改善点を発見することができました。例えば、プレゼンテーションの機会では、自分たちの考えを的確に伝えることや、相手からの質問に落ち着いて対応することの難しさを痛感しました。この経験を通して、伝える力や論理的思考力をより磨く必要があると感じました。このインターンシップを通じて、社会人としての働き方を学ぶとともに、自身の成長も実感することができました。今後の学習や就職後の仕事においても、この経験を忘れずに活かしていきたいと思えます。

インターンシップに参加して



メディア情報工学科
いけはら たけと
池原 武人

私は夏休みに、ソフトバンク株式会社のJOB-MATCH インターンシップに2週間参加しました。私が配属された部署では、顧客データの分析や社内システムの開発に携わり、実務に直結する業務を経験しました。メンターの方から実際の仕事の一部を課題として与えられ、限られた時間の中で試行錯誤を繰り返しながら、課題解決に取り組みました。実際の業務に触れることで、知識だけでなく実践力や問題解決能力、コミュニケーション能力の大切さを実感しました。

また、インターンシップを通じて、他大学の学生や社員の方々と交流する機会が多くあり、業界の話など、高専外の話も多く聞くことができました。社員の方々と共に働く中で、ソフトバンクならではのスピード感や挑戦を重視する文化を肌で感じ、自分が想像していた企業イメージとのギャップに驚かされました。短い期間ではありましたが、自分の強みや今後の課題が明確になり、大きな成長できたと思います。インターンシップ終了後の早期選考では、これまでの経験を元に自信を持って挑み、ありがたいことに内定をいただくことができました。

インターンシップは単なる就業体験ではなく、視野を広げ、自分の可能性を試す絶好の機会であると考えようになりました。後輩の皆さんも、ぜひ積極的に挑戦し、自分の未来を切り開いてほしいと思います。



メディア情報工学科
とみさか はると
冨坂 温人

私はメディア情報工学科4年の冨坂温人です。高専ではJavaやPythonを学び、ネットワークやソフトウェアの知識を深めながら、特にデータサイエンスに興味を持っています。今回、KDDI アジャイル開発センターの5日間インターンに参加し、アジャイル開発やスクラム手法を実践的に学びました。短期間ながら、チームでの開発を通じて迅速な意思決定や柔軟な対応力、そして円滑なコミュニケーションの重要性を強く実感しました。また、企業の開発プロセスや実際の業務の流れを体験することで、これまで学んできた知識がどのように活かされるのかを考える機会にもなりました。

今後、インターンに参加する方も多いと思いますが、インターンでは受け身にならず、自ら積極的に発言し、学ぶ姿勢を持つことが大切です。実際に現場で働く方々との交流を通じて、業務のリアルな側面を知ることができるので、疑問に思ったことはどんどん質問し、吸収する意識を持って取り組んでほしいと思います。興味のある分野のインターンに挑戦し、実践的な経験を積むことで、将来の進路をより明確にする手助けになるはずです。この貴重な経験を活かし、今後も学びを深めながら成長していきたいと考えています。



生物資源工学科
まつたけ たいち
松竹 舵一

私は夏休みに大阪シーリング印刷株式会社（OSP グループ）さんのインターンシップに参加させて頂きました。生物資源工学科に所属していますが、モノづくりが好きで機械システム工学科など他学科の分野にも興味があったため、全国のシールだけではなく、材料から生産機械までもを開発製造しているOSPさんのインターンに参加しました。

インターンでは道具の製造だけでも学校で学んだ化学や危険物、興味のあった材料や機械科が学んでいるようなことを実際に見て体験することができました。特に興味があった部署でのインターンは台風の影響で3日のみとなり、私だけ参加できませんでしたが、それでも数多くのことを学ぶことができました。OSPさんでは高専のOB・OGの先輩方が多く働いており、今回のインターンも高専生のみであったため、他高専のことや高専でやるべきこと、やっておきたかったことなど高専に関わることを知り、これからの進路、特に自分の興味のある分野についてさらに視野を広げ、今からすべきことを考えるとても良い機会となりました。

今学んでいることに近い分野だけではなく、自分が本当にやりたいことや興味のある分野のインターンシップに参加してよかったと感じています。



生物資源工学科
ともよせ ももな
友寄 桃菜

インターンシップでは、琉球セメント株式会社という県内のセメント製造に携わる会社にお世話になりました。琉球セメントでは、5日間で各部署の見学や体験実習を実施し最終日にスライドを作成して各部署の役員さんの前で発表するという流れでした。

セメント工場の見学や石灰岩の破碎現場は、常時回転している石炭を熱する回転窯の構造を間近で観察したり、工場全体の様子を一望できる展望台では高所でも感じる熱気の間接的な感覚からセメント工場の規模感を肌で体感したりその場でしか得られない体験になったと思います。私の専門分野に直接関わる部署としては、品質管理室というセメントやセメント原料の品質の検品を行う部署がありました。品質管理室では、作製したセメントに負荷を与えて強度を試す試験を行っていて全て人の手で操作されているのが印象的でした。セメントの強度試験は、サンプルを器具に設置して結果を記録する作業が続くため何よりも集中力が求められる作業でした。実習期間中はスーツよりも作業服で行動することが多く実務を多く取り入れた実習だったと思います。

やはり実際に体験できるとより業務について理解できるだけでなく、自分にとって向き不向きかを早めに判断することができるので良い機会を与えられたなと思いました。

修了生(専攻科2年生)へ贈る言葉



機械システム工学コース
たけむら ふみあき
武村 史朗

修了生の大部分は機械かパソコンでしか、僕との接点はないですね。授業や専攻科実験は楽しく過ごすことができました（学生がどう思っているかは不明ですが）。ありがとうございました。半世紀生きた僕の振り返りになりますが、若いときに勉強（仕事や自身の好きなこと）をしておく、心身のケアを気に掛ける、は年を経ているとキイテクル、と感じます。皆さんの前途にいいことがあることを祈念しています（一人一）



電子通信システム工学コース
なかひら かつや
中平 勝也

専攻科修了生の皆さん、ご修了おめでとうございます。
皆さんの沖縄高専での7年間の高専生活は、長かったようで短かった、そんな思いを抱えているのではないのでしょうか。
新社会人として歩み始める皆さん！これからの数年は、おそらく人生で最も充実し、楽しい時間となります。先生や保護者から指示されることもなく、自分の力で生活を切り開き、自分の選んだ仕事をし、収入を得て、趣味に没頭する日々が待っています。ただし、一つだけ忘れてはいけないことがあります。それは「責任」です。これからは、何かを創り出し、周囲に提供する側へと立場が変わります。

大学進学を選んだ皆さんへ。大学生活は思っている以上にあっという間に過ぎ去ります。ぜひスタートダッシュしてください。すぐに研究が始まるでしょう。高専での卒業研究が楽しかった人はさらに深く研究を追求し、満足できなかった人は次の研究に挑戦して良い成果を目指してください。

皆さんの持つ良いところは一生変わりません。無いものや変えられないことに執着するより、自分を信じ、人生を思い切り楽しむことが大切だと思います。これからも皆さんを心から応援しています。またお会いしましょうね。



情報工学コース
たまき たつひろ
玉城 龍洋

情報工学コースの皆さん、専攻科修了おめでとうございます。また、保護者の皆様にも学科教員を代表してお祝い申し上げます。新型コロナウイルスの影響を完全に脱し、専攻科の2年間は以前の高専生活が戻ってきました。対面授業はもちろん、実験や研究でみなさんと議論ができるようになったことが私にとっては一番の喜びでした。

みなさんは、高専の7年間で振り返ってどう思いますか。皆さんが生まれてからの約3分の1をここで過ごしたことになります。多くの事を学んできたことでしょう。良い事だけではなく辛い事もあったかと思います。それら全てがあなたのチカラになっています。高専で7年間も過ごし、修了した自分に自信を持ってください。4月からはそれぞれが新しい道を歩き出します。高専で学んだ知識と技術、そして自主性と忍耐力を発揮し、新しい道でも活躍することを期待します。でもたまには立ち止まって、ゆっくり周りを見回して、楽しいことを発見しながら歩いてください。



生物資源工学コース
いそむら なおこ
磯村 尚子

生物資源工学コースの皆さん、修了おめでとうございます！15歳で入学し、本科5年と専攻科2年の合計7年間の高専学生生活を無事に終えたこと、本当にうれしいです。そして、特別研究Ⅱの最終発表、お世辞抜きで面白かった&すばらしかったです。本科1年生のころから皆さんを知っているので、こんなに大きく成長したのかーと、なおさら感無量でした。

4月から、進学・就職それぞれだと思います。進学する方々。自分の経験ですが、大学院時代は研究のことだけ考えて打ち込める貴重で楽しい時間でした。思いっきり研究してください。そして、結果は論文や発表で必ず公にしましょう（←これ、大事ね）。就職する方々。これも自分の経験ですが、学生時代とは違う状況や立場に戸惑うこともあると思います。でも、自分の働きの対価としてお金を貰い、それを自分のためや自分がしたいことに使えるのは、自立した証です。大いに働き、大いに楽しみましょう。

修了(専攻科2年生)にあたって



機械システム工学コース
うえはら こうへい
上原 光平

沖縄高専に入学した当初は、環境の変化や勉強の難しさから「ここで本当にやっていけるのか」と不安になり、正直なところ後悔したこともありました。しかし、振り返ってみると、あっという間に7年が経ち、多くの経験を積むことができました。

特に、「曳航型水中ロボットの電装系の実装（特別研究）」に取り組んだことは、自分にとって大きな挑戦でした。ロボットの制御回路や通信システムの開発、プログラムの作成など、試行錯誤を繰り返しながら進める中で、計画通りにいかないことの連続でした。それでも、地道に改善を重ねることで、システムが少しずつ形になっていくのを実感できたことは、大きな達成感につながりました。研究を通じて得た知識や経験は、今後の技術者としての成長に必ず活かせると確信しています。

そして、努力の結果として良い就職先が決まり、次のステップへ進む準備が整いました。沖縄高専に入ったことを後悔していた自分も、今では「ここで学んでよかった」と心から思います。これまで支えてくれた先生方、仲間、家族に感謝しつつ、新しい環境でも成長し続けたいと思います。

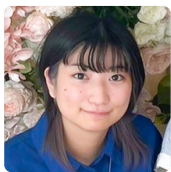


電子通信システム工学コース
しまぶくろ そう ま
島袋 颯馬

高専本科・専攻科の7年間を振り返ると、激動の学生生活だったと感じます。コロナ禍という予期せぬ事態に直面しながらも、ロボコンやIoTコンテスト、インターンシップ、研究活動など、多くの活動や課題に挑戦し続けました。これらの活動を通じて、機械制御、情報処理、アルゴリズム、電気電子工学、半導体物性といった工学分野における幅広い知識とスキルを得ることができました。

特に専攻科でのOISTでのインターンシップやラボアシスタントの経験、特別研究を通じて、実践的なシステム開発能力や課題解決力を身に付けることができたと感じています。正直なところ、個人的には充実感を十分に感じられていない部分もありますが、こうして客観的に振り返ってみると、日々の積み重ねが形になっていると実感します。

「明日を今日より幸せに」。最近、この言葉が特に印象に残っています。私は将来的に半導体関連技術の研究開発に従事し、社会に貢献することを目指しています。専攻科終了後は北陸先端科学技術大学院大学に進学し、シリコン半導体の研究に取り組む予定です。そこで専門性と研究能力をさらに高めていきたいと考えています。これまで高専で培ったスキルを基盤に、複合的な技術者として成長して、これまで見守ってくれた家族や友人、教員の方々に、「明日の幸せ」という様々な形で恩返しをしていきたいと思っています。



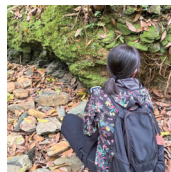
情報工学コース
あくたがわ り こ
芥川 理子

地元を離れ、沖縄高専に入学してから7年が経ちました。約3分の1の人生を過ごしたこの時間も、卒業を迎えた今、振り返るとあっという間だったように感じます。特に専攻科では、専門的な授業や実習が増え、忙しくも充実した学生生活を送ることができました。

本科4年のインターンシップを機に、「自分は企業に求められる人材になっているのか」と考えるようになりました。チャレンジが苦手だった私は、コンテストや大会で実績を積む友人と比べ、自信を持てずにいました。だからこそ、「できることはすべて挑戦しよう」と決意し、専攻科に進学しました。苦しいこともありましたが、その一つひとつが成長につながる貴重な経験になったと感じています。

本科5年から専攻科で取り組んだ研究では、タイでの国際学会で発表し、“Honored Award”を受賞しました。また、多くの挑戦を通じて自信を持てるようになり、就職活動では前向きな気持ちで面接に臨むことができました。

4月からは地元を離れ、新たな環境での生活が始まります。これまでに学んだことを活かし、さらに多くのことに挑戦しながら成長していきたいと考えています。最後に、支えてくださった先生方、友人、そして家族に心から感謝申し上げます。皆さんのおかげで、ここまで成長することができました。本当にありがとうございました。



生物資源工学コース
しんざと しゅれい
新里 守礼

大学院に進学するために専攻科に入学し、あっという間に2年が経ちました。

専攻科1年生では、大学院への長期インターンシップや学会発表に挑戦したりしました。

長期インターンシップでは、奈良先端科学技術大学院大学に1か月間お世話になりました。植物を守る・病気を治す研究に興味があったため、植物免疫学研究室を訪ねました。自分の研究分野とは違う分野だったため、教わったすべてがとても新鮮でした。その後、他にも大学院の見学へ行き、最終的に筑波実験植物園と連携していた茨城大学に決めました。将来、植物園で保全などの研究に携わりたいと考えていたため、植物園の研究室という時点で一目惚れでした。来年度からは、植物多様性保全学研究室で絶滅危惧種の保全を目標に学んでいきます。

他の大学院を見学したことで、沖縄高専での過ごしやすさや自由度も改めて実感しました。設備も新しく、先生方も質問に丁寧に答えてくれたり、実験に失敗してしまったときはアドバイスをくれたり、卒業研究ではやりたいことをサポートしてくれます。在校生の皆さんには、この環境を生かし色々な経験を積むことをお勧めしたいです。

最後に、支えてくれた先生方、クラスメイトそして家族の応援に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

学生会長挨拶（1年を振り返って）



学生会会長
じょしゅ あ
ヒュー 叙主亜

皆様、こんにちは。

令和6年度学生会会長を務めさせていただきました、機械システム工学科4年のヒュー叙主亜と申します。

この1年間は「飛躍する学生会」をテーマに、沖縄高専を他のどの学校よりも活気付けるべく、40名のメンバーと共に日々奮闘してまいりました。

学生の皆様はもちろんのこと、教職員や後援会の保護者の皆様方、時には沖縄高専OBOGの方々のお力添えもあり、今年度は沖縄高専を歴代で一番盛り上げられたのではないかと考えております。

学生会主催の初大型イベント「美ら星祭」をはじめ、新歓や冬季球技大会といったスポーツ面や国際交流委員会WSBとの文化交流イベント、ボランティア地域清掃など、数々の企画を成功させることができました。

「美ら星祭」では、多くの学生が自ら企画・運営に携わり、夏を感じられる装飾を取り入れ、音楽・ダンスパフォーマンスなどを通じて、他学年との親睦を深め学生コミュニティを活発にする貴重な機会となりました。

また、数年ぶりに実施されたボランティア地域清掃には、多くの学生が積極的に参加し、辺野古区域の美化活動に貢献することができました。辺野古の地域住民の方々からも感謝の言葉をいただき、沖縄高専学生会から社会貢献への新たなスタートを切る契機となりました。

さらに、鹿児島高専と明石高専をそれぞれ主幹に開催された九州・全国高専交流会においては、全国の高専の学生会との情報交換などの活動をととして、高専相互のコミュニティを育み、各高専の活性化を促す大きな一歩となりました。

令和7年度は令和5年度に引き続き、沖縄高専が全国高専交流会の主幹校を務めることとなりました。全国の高専の皆様方、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

この1年間、学生会活動を通じて、多くの方々と協力しながら成長できたことを大変誇りに思います。私たちの挑戦が、今後の沖縄高専のさらなる発展につながることを願っております。そして、次期学生会の皆様にはこの熱意を引き継ぎ、より素晴らしい沖縄高専を築いてほしいと思います。

最後に、私たちの活動を支えてくださった全ての方々に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



↑全国高専交流会 in 明石高専

高専祭を終えて

うめきた にい な
実行委員長 梅北 新菜

今年の高専祭が無事に終わり、副実行委員長から実行委員長までの2年間の活動を振り返ると、本当に多くのことを学び、成長できたと感じています。最初は不安もありましたが、たくさんの人と関わりながら準備を進める中で、組織運営やチームワークの大切さを実感しました。

まず実行委員長として、人生の中で初めてこんなにも大きなイベントをまとめる立場になり、改めてリーダーの難しさを痛感しました。特に、みんなの意見を尊重しつつ、全体をスムーズに進める方法を見つけることが難しく、何度も壁にぶつかりました。しかし、実行委員会の15名と毎週定例会を重ね、一緒に解決策を模索していったことで、少しずつ自信がついていきました。

また、予想外のトラブルに対応する力も鍛えられました。準備期間中には、協賛金の調達や学生間の意見の食い違い、当日には急病人対応など、いろいろな問題が発生しました。その都度、どうすればベストなのかを考え、即座に行動しなければならず、戸惑うこともありました。そこで、常に周囲と連携しながら対応したことで、どんな状況でもすぐに判断できる力が身についたと感じています。

さらに、チームワークの大切さを改めて実感しました。これまでの2年間を通して、高専祭は一人の力では絶対に成功しないイベントであり、実行委員会、全学生、協賛企業、後援会など、多くの方々の協力があってこそ成り立つものだとして強く感じました。学生組織ということもあり、準備中には意見のぶつかり合いも多々ありましたが、共通の目標を持ち、お互いを支え合うことで共に成長し、乗り越えることができたと思います。特に、SNSを活用した広報活動では、みんなでアイデアを出し合いながら試行錯誤を重ね、多くの人に興味を持ってもらうことができました。

そして、今年の高専祭では協賛金が過去最高額となり、多くの方々に支えられていることを改めて感じました。協賛企業や後援会の皆さまのご支援があったからこそ、こんなにも素敵なイベントを作ることができたと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

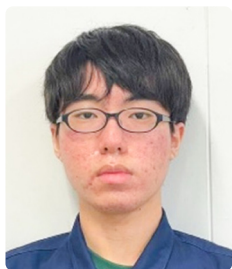
また、高専祭を終えて感じたことは、「挑戦することの大切さ」です。実行委員の仕事は決して楽ではありませんでしたが、それ以上に得られたものが大きかったです。リーダーとしての責任を持ち、問題を乗り越え、仲間と協力しながら一つのイベントを成功させたことは、今後の自信につながると感じます。

この経験を活かし、これからも新しいことにどんどん挑戦していきたいです。そして、来年以降の高専祭がさらに素晴らしいものになるよう、自分が学んだことを後輩たちに伝えていけたらと思います。

最後になりましたが、支えてくださったすべての方々のおかげで、ここまで大成功に収めることができました。本当にありがとうございました！！高専祭最高！！



ロボコンの結果報告



沖縄高専ロボット
製作委員会委員長

たなべ あきのり
田邊 晃典

こんにちはロボット製作委員会の田邊晃典です。

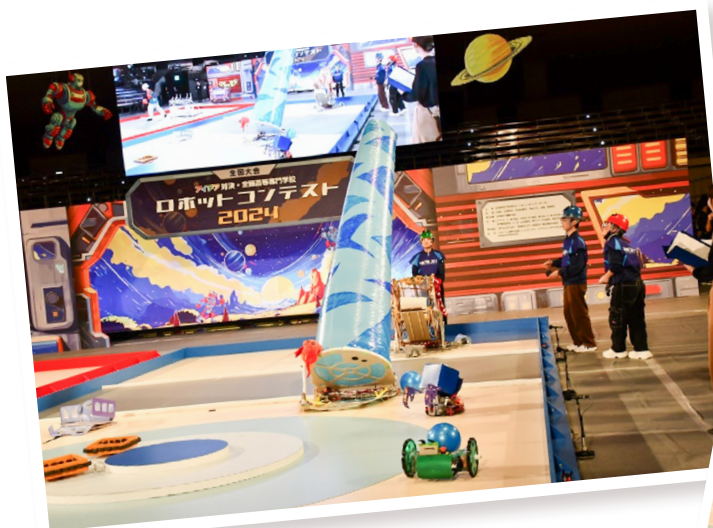
私たちはNHKが主催する「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」に出場することを活動の軸に、ロボットの製作を行っています。2024年大会は、ロボットがロボットを数メートル投げ、投げられたロボットがボールやボックスをスタート地点まで持って帰ってくるという競技でした。4月にルールが発表されると毎年10月ごろに開催される地区大会に向けて1からロボットを作っていきます。

宮崎県で行われた九州沖縄地区大会では沖縄高専からA・Bの2チームが出場しました。Aチームは沖縄の古民家をモチーフにしたロボットがヤドカリを模したロボット達を投げ、それらが全長3メートルを超える大きな風船を使いボールを持ち帰るという戦略で挑み、そのダイナミックな方法が評価され、全国大会でのエキシビション出場枠を頂きました。Bチームはシンプル、効率的な設計のロボットで最速でボールなどを回収しVゴール（競技完遂）を目指す戦略で挑みました。しかし、残念ながら会場でのロボットトラブルにより高得点を獲得することが出来ず、予選敗退となってしまいました。

全国大会エキシビションでは、各ロボットの説明を行いながら風船を使ったボール回収を披露し、国技館の観客を魅了しました。

名前にもあるとおり高専ロボコンは「アイデア対決」。一つの競技を遂行するにもその方法は各高専、各チームで千差万別です。高得点を取ることであればロボコン大賞を受賞することは出来ず、アイデア対決で勝つためにはルール発表後に行うアイデア出しが非常に重要となってきます。私たちはチーム全員でアイデアを出し合い、多くの話し合いを通して製作するロボットを決めています。話し合いの中で時には方向性の違いでぶつかったりすることもあります。しかし、それを乗り越えてみんなで作り上げたロボットが完成したときの達成感は言葉で表すことは出来ません。

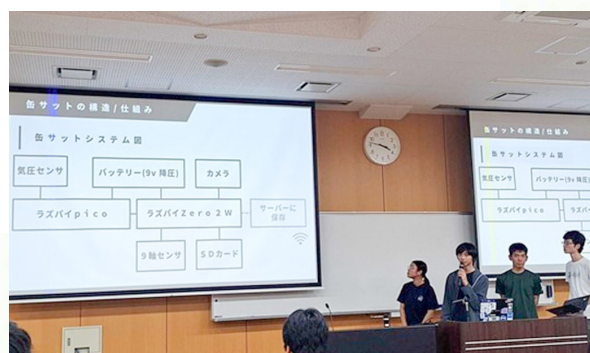
2025年、私は高専ロボコンに出場する最後の学年となります。自分達が今まで見てきた先輩達のノウハウを受け継ぎ、さらに強いものにして後輩たちに継承していくため、これからも全国優勝・ロボコン大賞という夢を胸に委員一同努力していきます。どうぞ今後ともロボット製作委員会をよろしくお願いいたします。



課外活動・コンテスト実績

■ コンテスト関係主要実績

コンテスト名	成績等
アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト 2024 全国大会	・エキシビション招待参加 プロジェクト名：はいさい！ヤドカリーズ
パソコン甲子園 2024	・グランプリ（モバイル部門） チーム名：あんちょこモード 作品名：いきいき肺活 （呼吸トレーニングを行うアプリ）
第 35 回全国高等専門学校 プログラミングコンテスト	・特別賞、シーエーシー企業賞（課題部門） 作品タイトル：SEA-VIS-水中ドローンとAIによる調査システム- ・敢闘賞（自由部門） 作品タイトル：PeerReach-仲間との協力で トップへ到達- ・敢闘賞（自由部門） 作品タイトル：シオサビン-塩害を検知、 予報し被害を未然に防ぐ塩害対策アプリ-
第 3 回高専防災減災コンテスト	・防災科研賞 テーマ：災害時孤立地域の情報架け橋アド ホック防災ヘルメットの開発）
第 57 回九州沖縄地区 英語プレゼンテーションコンテスト	・1 位（暗唱部門）
第 27 回やんばる圏高校生 英語スピーチコンテスト	・金賞 ・銀賞
宇宙甲子園 沖縄地方大会	・優勝（缶サット部門） ※全国大会出場（2025.2下旬開催予定）



専攻科及び九州大学の 連携教育プログラムの紹介

専攻科長 たから ひでひこ 高良 秀彦

専攻科の後期では、講義、インターンシップ、特別研究などを通じて、専門分野および関連分野において、より深い知識、実践性および創造性を修得しました。特別研究においては、研究計画にそって自主的に研究を行い、学んだ知識と技術を駆使して課題解決を目指し、その結果を1月の特別研究発表会にて報告しました。また、その成果を学会等の学外でも多数発表しています。例年12月に開催されている琉球大学工学部との研究交流発表会では、今年度からコロナ禍前の対面方式に戻すことで、専攻科生と琉球大学の方々が直接意見を交流することができました。その他の学会・コンテスト等でも対面での活発な交流が行われており、専攻科生の技術者・研究者としてのスキル向上に繋がったように思います。

今年度、専攻科から26名が修了して新しい道へ踏み出します。専攻科で努力して修得してきたことが今後の進路で大きな実を結ぶと期待しています。自分を信じて、一歩ずつ前に進んでください。

「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム」が令和5年度より開始され、今年度で2年目となります。このプログラムは、九州沖縄地区の高等専門学校の各専攻科と九州大学工学部「融合基礎工学科」が連携して多様化する課題に適切に対応する人材を育成しています。履修者は高専専攻科と九州大学の双方に在籍して、1年目（専攻科1年次）は主に高専で、2年目（専攻科2年次）は九州大学で学びます。希望者は2年目に九大筑紫キャンパスにある新築の学生寮に入居できる予定です。プログラム所定の課程を修了すると、高専専攻科から修了証書ならびに九州大学からの卒業証書（学士の学位記）が交付されます。今年度、沖縄高専から入学した本プログラム生は全員熱心に学習に取り組んでいました。九州大学に拠点を移した来年度も引き続き学業に励んでください。また、来年度も沖縄高専から新たにプログラム生が入学する予定です。沖縄高専と九州大学の両方での学びを楽しみながら積極的に取り組んでほしいと思います。

本プログラムの詳細については、下記ホームページをご覧ください。

九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムホームページ

<https://renkei.kyu-kosen-ac.jp>



就職・進学活動を終えて[本科5年生]



機械システム工学科
あ は ご ん つ ば さ
阿波根 大翔

5年機械システム工学科の阿波根大翔です。私は本科での学びを通じて、自分の進路について深く考えた結果、私は進学する道を選びました。しかし、周囲には就職内定者が多く、働くことへの期待や将来の目標を語る姿を見聞きするうちに、「この選択で本当に良いのか」と迷う時期もありました。それでも、九大連携プログラムや専攻科での学びが自分にとって必要だと考え、進学を決意しました。

学校生活を振り返ると、1, 2年生の頃はコロナ禍の影響で制限が多く、遠隔の授業が続くといった例年とは異なる環境でした。それでも、どのように充実した日々を過ごすかを常に意識してきました。学習面では課題やテストに全力で取り組み、上位の成績を維持することを心がけました。また、寮生活を通じて生活リズムを整え、勉学と遊びのバランスをいい塩梅に調整しながら、自分のペースを大切に、モチベーションを維持することで健康で充実した5年間の過ごし方ではないかと思っています。

次年度から新たな環境に進みますが、選んだ道に自信を持ち、迷ったりすることもあると思いますが、自分のペースで努力し、成長していきたいです。



情報通信システム工学科
ふ じ な み た い よ う
藤波 太陽

私は無気力という言葉が似合う人間であると自分で思っています。そんな私も2年生の時に友達とのその場のノリで創造研究を履修しました。その場のノリで履修してしまったものですから正直やる気はありませんでしたがある程度真面目にコンテストや課外活動に参加しました。そうしていると4年生も終わりに近づき、進学する気が一切なかった私は就職活動を行わなければならなくなりました。

就職活動を始めて一番感じたことは今まで学校で学んだことが役に立っているということです。特に研究活動が取り組んでよかったと感じました。履歴書に書く実績としてもそうですが、コンテストや課外活動に参加すると当然ですが申し込みや諸連絡で高専内外多くの人と連絡を取り合うこととなります。その際に失礼のない文章を意識しなければならぬため、ビジネスマナーや文書作成のいい訓練になると感じました。そうして無気力な私でも学校で学んだことを活かして無事就職活動を終えることができました。

そうして就職活動を終えて思ったことは、ありふれた言葉になってしまいましたが「何事も経験」です。高専に所属している間、いろいろな課外活動やコンテスト、私が参加したような研究活動などの案内がメールや人づてで流れてくるかと思いますが、それを面倒くさいと無視するのではなく、理由は何だっていいのでやってみることが大切だと感じました。やる気がなくてもやってみることで様々な経験ができ、それを通して自分がやりたいことが見つかることだってあるかもしれませんし、就職活動で必須になる自己分析にもつながります。

かなりぶっちゃんけた文章になってしまいましたが、みんながみんなやる気に満ち溢れた人ばかりではないと思いますので、少しでも参考になればと思います。



メディア情報工学科
し ろ ま ひ か る
城間 耀

私には、データサイエンティストになるという目標があります。来年度から名古屋大学情報学部に進学し、その目標に向かってさらに学びを深めていきます。今では自分の進みたい道がはっきりと見えていますが、振り返ると、この「やりたいこと」を見つけるまでが一番難しかったように思います。

私が高専に入学した理由は、朝が苦手だからフレックスタイムで働けるプログラマーになりたいといった漠然としたものでした。入学後も、寮生活や自由な校風の中で、ただ毎日を楽しむことに夢中になっていました。そんな中で進路について真剣に考えるようになったのは、4年生になってからでした。

最初は、就職と進学のどちらを選ぶべきかさえ決められず悩みました。そこからインターンシップや企業説明会、オープンキャンパスに参加する中で、少しずつ自分のやりたいことが明確になっていきました。受験勉強や資格取得の準備も大変でしたが、それ以上に、自分を見つめ直し、やりたいことを見つけることが最も難しく、同時にその悩んだ時間の中で一番成長できたと感じています。

高専は、自分の裁量で時間を使い、さまざまなことに挑戦できる環境が整っています。だからこそ、興味を持ったことには積極的に取り組み、自分の「好き」や「得意」を見つけることが大切です。自己分析を通じて自分を深く理解することが、後悔のないキャリア選択につながると思います。



生物資源工学科
な か む ら そ ら
中村 青空

僕は来年度から花王株式会社へ入社します。僕が就職活動を終えて大切だと感じたことは、エントリーシートで必須になる「自分の強み」や「学生時代に力を入れた事」を早くに見つけて、伸ばしていくことです。

僕にとっての高専の5年間というのは思いのほか早く過ぎてしまい、気付けば就職活動の時期になっていました。4年生では自分の興味のある会社のインターンシップに参加したり、業界研究会では様々な企業の説明を聞きに行ったりと、企業研究には力を入れることができました。しかし5年生になって本格的に就職活動を始めてみると、エントリーシートに苦しめられることになりました。新型コロナウイルスの影響による遠隔授業や、学校行事の縮小などにより、自分が思っていたものとは大きく異なる学生生活を送ることになり、自分の強みや学生時代に力を入れたことを探るのがとても大変でした。ですが、家族や友人、教授など、周りの人と沢山話をする中で自分を見つめなおすためのとてもいい機会になりました。

3, 4年生のうちの早い段階から自分を見つめなおして、自分の強みや学生時代に力を入れたことを意識してさらに伸ばしていくことがとても重要だと感じます。これは就活、進学どちらにも生きてくると思います。これから就職進学活動を頑張る皆さんの参考になれば幸いです。これからの時間を大切に頑張ってください！

就職進学活動を終えて[専攻科2年生]



機械システム工学コース
おかぜ こう
尾風 剛

就職活動を終えて、改めて専攻科での学びが自身のキャリア選択に大きく影響したと実感しています。私はこの春からコンサル企業のシステムエンジニアとして働くことになりました。この進路は、機械システム工学コースでは珍しい選択肢かもしれません。専攻科では、専門分野に加えて異なる分野の知識も修得できる環境があり、その経験が、進路の幅を広げる大きな要因になったと感じています。専攻科で得たIT分野の知識が、今回の進路選択に大きく役立ったと感じています。

就職活動では、業界研究や企業分析を早めに行い、できるだけ多くの情報を集めることが重要です。特に、自分のやりたいことが明確でない場合は、企業説明会やOB・OG訪問を活用し、幅広い視点で選択肢を検討することをおすすめします。また、面接対策は早いうちから始め、先生や先輩の協力を得ながら実践的な練習を積むことで、本番でも自分をしっかりアピールできるようになります。

これから就職活動を迎える皆さんには、自分の専門性を深めつつ、異なる分野の知識や経験も積極的に取り入れることをおすすめします。選択肢が増えることで、自分に最適な進路を見つけやすくなるはずです。悔いのないよう、早めに行動し、充実した高専生活を送ってください。

最後に、高専と専攻科での学び、支えてくださった先生方、共に頑張った仲間たちに心から感謝します。



情報工学コース
たいら こうや
平良 昂也

沖縄高専に2018年に入学し、今年修了することになりました。入学当初は機械システム工学科に在籍しており、「プログラムを書きたい、自身が考えるサービスを作りたい」という思いからメディア情報工学科に転科しました。その後は、自身の専門技術を深めながら、他学科の専門も学べる沖縄高専専攻科に入学しました。

専攻科修了後の進路は就職か大学院進学を選ぶ人が多く、私の場合は「消費者向けのエンタメサービスを作りたい」と考え、就職を選びました。就職活動では、専攻科一年生から準備していたこともあり、就活を支援するエージェントの利用や、OBOGの先輩からの話を聞いたり、企業との繋がりが広い教員からの助言等の様々なキャリア形成を考えるきっかけを頂き、第一志望群の企業から内定を頂くことができました。専攻科は入学してすぐに就職に向けた準備をすることになりますが、周りの大人やOGOB等のつながりを使うことで、後悔がない就職活動ができる環境でもあります。そのため、困ったときは一人で悩むのではなく、周りの人に助けを求めるといいかと思います。それができるのが沖縄高専の良いところだと考えています。

最後に、高専生活で出会えた教員の方々、共にすごした学友達等の様々な人に助けを頂きながら、7年間を楽しく過ごせたことに私は感謝しています。



電子通信システム工学コース
ほし そうた
星 草汰

就職活動を終え、KDDIに内定をいただき、感謝と期待の気持ちが交錯しています。これまで、地域の問題を、高専で学んだ通信技術や、数々のIoTコンテストで学んだプレゼン力やコミュニケーション能力で解決してきた経験から、人々の生活を豊かにするためのインフラとしての通信の役割に感銘を受けて、第一希望として応募しました。

就職活動では、企業インターンや自己分析に時間を費やし、自分の強みを「コミュニケーション力」と「チームでの協働力」として明確化しました。そして、それをKDDIの求める人物像と重ね合わせながら、自分がどのように貢献できるかを考え、面接で誠意をもって伝えることを心掛けました。

内定をいただいたとき、これまでの努力が報われたことに安堵すると同時に、これからの責任を強く感じました。これからはKDDIでは、先進技術を活用し、多様な国家の垣根を越えて人々と協力しながら、より良い通信社会を構築していきたいと考えています。

最後に、支えてくれた家族や友人、教員の方々に深く感謝しています。この感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献できる一人前のエンジニアを目指していきます。



生物資源工学コース
よこだ ひでひろ
與古田 英裕

私は4月から、名古屋大学大学院 医学系研究科に進学する予定です。

高専生活振り返ると、進学活動に限らず、ひたすら自分探しを続けた7年間だったように思います。

「何が得意なのか」や「将来は何がしたいのか」の答えを求めて、休学・留学、プログラミングの勉強、開発のアルバイトなどと、授業以外でも様々なことに挑戦し続けました。本科4年次では、本科卒業後の就職を考えていましたが、「人生で最後かもしれないから、全力で研究に取り組んでみよう」と思い、専攻科への進学を決めました。

医学や研究に興味を持ち、大学院進学を決意したのは、専攻科1年の時でした。特別研究や共同研究、学外のコミュニティに参加し、様々な先生や研究者の方々と関わる中で、ようやく自分の居場所や、やりたいことを見つけられた気がします。

優柔不断で決断も遅かった私が、最終的に希望する大学院に合格できたのは、明確な目標がない中でも、目の前の選択肢をチャンスと捉えて挑戦し続け、その中で自分の強みを育てることができたからだと思います。

長い高専生活には、多くのチャンスが転がっています。「今できることを今のうちに」。これから頑張る後輩の皆さんには、優柔不断だからこそ見える景色もある、ということ伝えたいです。

最後になりましたが、様々な挑戦の機会を与えてくださった指導教員の先生をはじめ、高専で出会えたすべての方々に心から感謝申し上げます。

■就職・進学・志願状況

【令和7年3月卒業予定者の進路状況】

令和7年2月1日現在

	区分	学科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
合格状況	卒業予定者数※2	43	41	46	40	170
	進学希望者数	9	11	17	14	51
	合格者数	9	10	12	8	39
	うち専攻科合格者数	7	6	2	7	22
	うち3年次編入等合格者数	2	3	9	1	15
	うち専門学校・その他合格者数	0	1	1	0	2
	進学合格率 (合格者数／進学希望者数)	100.0%	90.9%	70.6%	57.1%	76.5%
内定状況	進学先※1	沖縄工業高等専門学校専攻科(7) 東京通信大学 金沢大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(6) 豊橋技術科学大学 千葉大学 熊本大学 東京デザイン専門学校	沖縄工業高等専門学校専攻科(2) 豊橋技術科学大学(3) 沖縄国際大学 東京工科大学 名古屋大学 琉球大学 金沢大学 長野大学 那覇日経ビジネス専門学校	沖縄工業高等専門学校専攻科(7) 長岡技術科学大学	
	就職希望者数	31	28	28	16	103
	就職者数	26	25	26	14	91
	就職率 (就職者数／就職希望者数)	83.9%	89.3%	92.9%	87.5%	88.3%
	就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業		沖縄工業高等専門学校技術支援室	株式会社 ヴィッツ沖縄(5) 株式会社シーエーシー 株式会社オプティム		
		計 0 名	計 1 名	計 7 名	計 0 名	県内計 8 名
		就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 4%	就職者に占める割合 27%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 9%
	就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	ANA ラインメンテナンス テクニクス株式会社(3) ANA 成田エアポートサービス株式会社 Daigas エナジー株式会社 SOLIZE 株式会社 出光興産株式会社(3) 株式会社 JAL エンジニアリング 株式会社アルティア 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 中部電力株式会社 トーテックアメニティ株式会社 トランスコスモス株式会社 パーソルクロステクノロジー株式会社(2) パナソニックオートモーティブ システムズ株式会社(2) レイズネクスト株式会社(2) 株式会社レゾナック 三菱ビルソリューション株式会社 蛭川造園土木株式会社 日鉄パイプライン&エンジ ニアリング株式会社 ジョンソンコントロールズ株式会社	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社(2) KDDIアジャイル開発センター株式会社(3) NTT データソフィア株式会社 株式会社 RKKCS 株式会社日立ハイシステム 21(2) 東京エレクトロン株式会社 パナソニックオートモーティブ システムズ株式会社 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 横河ソリューションサービス株式会社 株式会社 FIXER(3) 株式会社 エス・アイ・エス(2) 株式会社 エヌ・ティ・ティエムイー 株式会社 ソフトウェア・サイエンス 三菱電機エンジニアリング株式会社 出光興産株式会社 東京電力ホールディングス株式会社 富士通株式会社	出光興産株式会社 株式会社 ソフトウェアサイエンス 株式会社 日立ハイシステム 21(3) 株式会社 U-NEXT HOLDINGS フラー株式会社 株式会社 トヨタシステムズ 株式会社 アイ・エス・ピー RIZAP グループ株式会社 NTT データソフィア株式会社(2) 株式会社 アルトナー 株式会社 トヨタプロダクション エンジニアリング エスアイエス・テクノサービス株式会社 株式会社 NHK テクノロジーズ 株式会社 日立システムズ エンジニアリングサービス トランスコスモス株式会社 日本電気航空宇宙システム株式会社	アイリスオーヤマ株式会社 イオンフードサプライ株式会社 サントリーホールディングス株式会社 旭化成株式会社 横河ソリューションサービス株式会社 花王株式会社(2) 三井製糖株式会社 三建設備工業株式会社 新菱冷熱株式会社 雪印メグミルク株式会社 第一三共プロファーマ株式会社 中外製薬工業株式会社 株式会社 スタッフサービス エンジニアリング	
		計 26 名	計 24 名	計 19 名	計 14 名	県内計 83 名
		就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 96%	就職者に占める割合 73%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 91%

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（ ）内に示しています。

【令和7年3月修了予定者の進路状況】

令和7年2月1日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
合格状況	修了予定者数	5	8	5	8	26
	進学希望者数	2	1	0	4	7
	合格者数	1	1	0	3	5
	うち大学院等合格者	1	1	0	3	5
	うち専門学校・その他合格者	0	0	0	0	0
	進学合格率 (進学者数／進学希望者数)	50.0%	100.0%	0.0%	75.0%	71.4%
	進学先※1	東北大学大学院	北陸先端科学技術大学院大学		東京科学大学大学院 名古屋大学大学院 茨城大学大学院	
内定状況	就職希望者数	3	7	5	4	19
	就職者数	3	7	5	4	19
	就職率 (就職者数／就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業		金秀ホールディングス株式会社			
		計 0 名	計 1 名	計 0 名	計 0 名	県内計 1 名
		就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 14%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 5%
	就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	サントリーホールディングス株式会社 INTLOOP 株式会社 富士電機株式会社	株式会社クレスコ ARSTECH GUILD 株式会社 KDDI 株式会社 (2) 株式会社 ISF NET 株式会社エスユーエス	株式会社 U-NEXT HOLDINGS 株式会社アイエンター 株式会社シーエーシー 合同会社 DMM.com 株式会社日立アドバンストシステムズ	東京都下水道サービス コスモ石油株式会社 旭化成株式会社 沢井製薬株式会社	
		計 3 名	計 6 名	計 5 名	計 4 名	県内計 18 名
		就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 86%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 95%

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を () 内に示しています。

後学期行事予定

卒業式・専攻科修了式

3月18日(火)

入学式

4月3日(木)

(問合せ先)

沖縄工業高等専門学校 総務課総務係

TEL : 0980-55-4003 Mail : ssoumu@okinawa-ct.ac.jp